

# 「諏訪湖の花火」開催の意義について

諏訪市経済部観光課観光係長 河西 俊明

「諏訪湖の花火」は、時代の流れの中でその形を変えながら、人々を魅了し感動させ、楽しみ方の幅が広がってきた。そのレガシーを継承する必要性を考慮しながらも、以下3つの観点、①諏訪市の観光産業には、上諏訪温泉を中心とした宿泊施設だけでも、約3,000人の雇用があり「市民の雇用をいかにして守るのか？」という現在進行形で直面する課題、②花火の再開には多方面から理解と協力を得る必要があるという観点、③幾度となく苦難を乗り越えてきた『復興』というメッセージを全国に発信し続けてきた観点、を意識して、“コロナ禍において、どのような花火ができるのか？”、ひとつの開催方法について長野県諏訪市から提案する。

## 1 ウィズ/ポストコロナとイベント運営の考え方 - 観光誘客と観光産業の維持 -

長野県諏訪市は、日本のおへそとも言われる諏訪湖や7年に一度の御柱祭で有名な諏訪大社の上社本宮、某家電メーカーのエアコン名称で知名度がある霧ヶ峰高原、高島城や上諏訪温泉など、天与の自然と悠久の歴史文化に恵まれた観光都市であると同時に、ものづくりの伝統が息づく最先端技術産業の集積地となっている。

諏訪地域の様々な事業者・団体また多くの市民の皆様のご協力により開催してきた毎年8月15日の終戦記念日に開催される「諏訪湖祭湖上花火大会(主催：諏訪湖祭実行委員会)」は、例年約50万人の観覧客が訪れる国内最大級の花火大会であり、令和4年(2022年)で74回目を迎える。

「平和産業」とも呼ばれる観光産業は、観光客が訪れ、地域にお金を落としていただいて始めてビジネスにつなげることができるが、あらゆる産業の中で最も新型コロナウイルス感染症の影響を受けた産業である。諏訪市の観光産業には、上諏訪温泉を中心とした宿泊施設だけでも、約3,000人の雇用があることから「市民の雇用をいかにして守るのか？」、

コロナ禍で県境を跨ぐ人の移動が制限される中、「どのような形で花火大会を開催することができるのか？」など多くの課題があり、花火の再開には多方面から理解と協力を得る必要がある。

コロナ禍に実施できる花火大会としては、前提条件として、長野県危機管理部が定める“イベント開催基準”に準じながらも、近年全国的に夏季の天候不順が続く中、防災を含めたりリスク回避も考慮していくことが必要となってきている。

一方で、「諏訪湖祭湖上花火大会」の運営におい

写真1 従来の「諏訪湖祭湖上花火大会」



ては、煙火師に加え、市職員、警察官、消防隊員、ガードマン、JR社員、さらに諏訪赤十字病院の医療関係者などを含め、約1,200人が従事している。花火大会に係る様々なシーンには、多くの技術やノウハウが存在しており、花火大会を開催するためには、「諏訪湖の花火」のレガシーを継承する（技術やノウハウの継承）必要もあることから、コロナ禍にあった形であっても「諏訪湖の花火」を開催することにより、少しでも事業継承していくことが求められる。

## 2 「諏訪湖の花火」のブランディングと伝統継承 - あるべき姿 -

「諏訪湖の花火」の歴史は、昭和24年（1949年）まで遡る。終戦の混乱の中で、市民が明るい希望を持ち一日も早く立ち直ることを願って、8月15日、諏訪湖で初めて「納涼諏訪湖花火大会（現：諏訪湖祭湖上花火大会）」が開催された。その後、昭和58年（1983年）には日本交通公社（現：株JTB）の「杜（もり）の賑い」の協力を得て「全国新作花火競技大会」の前身となる花火大会が開催され、平成15年（2003年）には、一定期間毎日毎晩花火が上がる「サマーナイトファイヤーフェスティバル そうだ！花火見に行こう（現：諏訪湖サマーナイト花火）」が始まり、「諏訪湖の花火」ブランドを定着させる土台を築き上げていった。

「諏訪湖の花火」は時代の流れの中でその形を変えながら、人々を魅了し感動させ、楽しみ方の幅が広がってきた。「夏の諏訪湖＝花火」というイメージが市民や観光客に幅広く定着し、全国屈指の花火大会の開催地に成長してきたことは、『観光地・諏訪』としての認知度を向上させ、観光入込客数の増加にも大きく貢献している。

### ＜「諏訪湖の花火」の特長＞

- ・諏訪湖に沿って上諏訪温泉の旅館街があるロケーションは、花火の打ち上げには最高の環境と言われている。
- ・周囲が山々に囲まれていることによる音響効果、湖面に映える花火の華麗さなど、花火師の確かな技術を最大限に引き出してくれる場所性が「諏訪湖の花火」の魅力を高めている。
- ・湖が遠浅で容易に湖上に足場が組めるという

条件も、諏訪湖だからこそできる水上スターマインやナイアガラなどの多彩なプログラムを可能にしている。

- ・この花火大会を下支えしているのは、多数の地元企業協賛者・市民等の協賛者であり、小中学生を含めた市民や諏訪市内の約17団体のご協力によるボランティア清掃は、地域としての連帯感がなせる業であると考えられる。

### ＜「諏訪湖の花火」ブランディング＞

- ・「諏訪湖の花火」の代名詞である水上スターマインをイメージしたロゴ（地元の風景画家・故原田泰治先生）や新作花火をイメージしたロゴ、「諏訪湖の花火」を筆字で表現したロゴ（地元の書家・藤澤水草先生）を様々なシーンで併用して使用している。
- ・諏訪湖祭湖上花火大会（毎年8月15日）や全国新作花火競技大会（毎年9月第1土曜日）のプログラムや広告、ウェブサイトなどに“諏訪湖の花火ならではのプログラム”を表現したデザインを使用し、「諏訪湖の花火」のイメージの浸透を図っている。
- ・信州ブランドアワード2008大賞を受賞：「諏訪湖の花火」
- ・メディアによる情報発信は、新聞・テレビ・雑誌を中心に県内はもとより、関東圏と中京圏を中心に全国的な展開をみせている。それらは、広告やCMなどではなく、特集や記事といった『広報』としての露出なので、視聴者や購読者の注目も必然的に高くなる。
- ・また「諏訪湖の花火」公式ホームページは、通年で運営し、より正確な情報をご提供するため更新も頻繁に行い、年間のアクセス数は約56万件を超えている（コロナ前の2018年7月から2019年7月まで）。「諏訪湖の花火」の知名度は、多くの観覧客とインターネットの普及による「諏訪湖の花火」ファンによる口コミ（掲示板など）によるものと考えられ、その人気を不動なものとしている。

画像1 「諏訪湖の花火」ロゴ

# 諏訪湖の花火

また、これまで諏訪湖祭湖上花火大会は、平成18年（2006年）7月豪雨災害、平成21年（2009年）8月局地豪雨災害という水害を乗り越えての花火大会開催、更には平成25年（2013年）局地的な暴風雨による第65回大会中止、といった苦難を幾度となく乗り越えてきた。その度に、時代や状況に合わせてスタイルを変えて継続的に花火大会を開催することにより、『復興』というメッセージを全国に発信し続けてきた。

様々なシーンで諏訪市役所の諸先輩は、時代の流れに合わせて改善を行いながら、その時々で新たな取り組みに果敢に挑み、「諏訪湖の花火」をつないできた。

個人的な見解となるが、これまで諏訪市役所職員として観光課における諏訪湖祭実行委員会の庶務班、人事異動後も資金班（協賛金収集担当）、参観席班（栈敷席担当）、交通班（駐車場担当）、運搬班（栈敷席の資材運搬担当）といった異なる角度で花火業務を経験し、諏訪市消防団の団員としても「諏訪湖の花火」に従事させていただいた。その時に感じた印象としては、それぞれのポジションで運営ノウハウの積み重ねと、市職員・市消防団員のイベント運営能力（緊急時対応のスキルを含め）の高さ、使命感や責任感といったものを感じることができた。

毎年開催されてきた花火大会は、これまで従事されていた多くの市職員、諸先輩の努力や関係者のご支援により、続けられてきたことを忘れてはならないと、今あらためて感じる。

### 3 特別な存在である「諏訪湖の花火」

個人的なエピソードとなるが、「諏訪湖の花火」に従事する関係団体や協力企業の方々から過去に伺った言葉がある。

- ・「諏訪湖の花火」は自分達が育ててきた”  
＜協力団体の声＞
- ・「諏訪湖の花火」は自分たちのイベントだと思  
っている”＜協力企業の声＞
- ・“経営的に苦しいが、「諏訪湖の花火」であれば  
協賛金を出したいと思っている”＜協賛企業  
の声＞

主催者ではない、協力団体や企業の方々からこれら生声を伺った時の衝撃を、今でも忘れられない。学生時代からも感じていたことだが、“諏訪市民や花火に関わる全ての方々にとって、「諏訪湖の花火」は特別な存在である”と改めて感じる。このような協力団体や企業の方々を支えている花火大会を、どのような形でつないでいくことができるのか、と日々考え続けることが重要である。

“コロナ禍において、どのような花火ができるのか？”ひとつの開催方法の提案として、昨年の令和3年（2021年）は、「第73回諏訪湖祭湖上花火 Two Weeks」として8月1日から15日の間、それぞれ約10分の花火打ち上げを試みた（このうち14日と15日の花火は、大雨や災害発生の影響により中止となったが、この2日分の花火は後日振り替えて実施）。

考えられる感染対策を行いながら大会という形式ではない、“分散開催”という形で、“テレビ・ラジオ・YouTubeでの生配信”という新たな手法も取り入れ、コロナ禍に安全安心に実施することができ「諏訪湖の花火」の可能性を提案した。

同様の形で実施された諏訪湖温泉旅館組合主体の「諏訪湖サマーナイト花火」、一般社団法人諏訪観光協会主体の「諏訪湖オータム花火」についても、約10分程度の短時間の打ち上げだったが、上諏訪温泉の宿泊施設では花火の評判が高く、コロナ禍前の稼働率に近い予約が入る施設もあった。また、飲食店については、花火を打ち上げた夜に観覧者が街に流れ、一定程度の経済支援に効果があった。

＜第73回諏訪湖祭湖上花火 Two Weeks 開催  
内容＞

大会コンセプト：「with コロナ時代における新  
たな諏訪湖祭湖上花火 Two Weeks 開催へ」

1. 開催日時：令和3年8月1日（日）～令和3年8月15日（日）  
午後8時30分～午後8時40分（雨天決行）
2. 開催場所：長野県諏訪市湖畔公園前 諏訪湖 初島及び台船
3. 内容：参加煙火師1社  
（諏訪湖祭10社の伝統を継承するため、従来参加協力煙火店から花火玉の提供）
4. 敷席：有料敷席なし、湖畔公園内フリースペース
5. 交通対策：交通規制なし（湖周線主要課所に警備員配置等）、臨時駐車場 旧東バル跡地 多目的広場 約150台
6. 新しいスタイル
  - (1) テレビ・ラジオ・YouTubeでの生配信
  - (2) 湖畔公園内フリースペース
  - (3) 15日間のロングラン花火
7. 感染対策
  - ①体調不良の際の来場自粛、②マスクの着用、③ソーシャルディスタンスの確保、④密集の回避、⑤飲食の制限、⑥規制退場及び混雑回避ご協力をお願い、⑦接触確認アプリ（COCOA）の活用

画像2 諏訪市観光ランドデザイン  
「SUWAらしい」があふれる観光地



画像3 「第74回諏訪湖祭湖上火火 The Legacy」チラシ



令和4年（2022年）は、「第74回諏訪湖祭湖上火火 The Legacy」として、今期は8月1日から15日のロングラン花火の中に新たに“協賛企業 Day”を設定する。更には、従来協賛企業へ提供していた敷席招待券の代替として“諏訪湖花火クーポン券”を新たに発行し、「分散開催という状況の中で、地域経済が循環し潤うには？」「厳しい状況下で協賛いただくことに対し、その気持ちに報いる何らかの仕組みができないか？」という2つの視点で、協賛企業に対し協賛しやすい環境整備の取り組みを実施する。

また、今春には、「ニコニコ超会議 2022～小林幸子×よみい SPECIAL 花火ライブ in 諏訪湖」に一般社団法人諏訪観光協会と諏訪商工会議所が協賛し、ニコニコ動画の生配信とのコラボ企画や、今秋には、「諏訪湖オータム花火～ロケ地諏訪湖 映画「百花」上映記念（菅田将暉さん&原田美枝子さんのダブル主演）」という諏訪圏フィルムコミッションとの連携により、新たに映像作品とタイアップした取り組みに着手するなど、「諏訪湖の花火」の価値を高める取り組みを展開する。

令和3年度に当市は、「諏訪市観光ランドデザ

イン」を策定し、市の観光振興を、行政や観光事業者だけではなく、地域住民を含めた様々な関係者が、課題や方向性、方針を共有し、協働により効果的に取り組むため、市の観光の将来像を示した。これを実現するため、観光事業者や市民団体等と連携し、「諏訪湖の花火」+  $a$  の観光誘客コンテンツを磨き上げる取り組みを展開することで、「諏訪湖の花火」のレガシーを継承していく。